どう守る？
車内の子ども

# パパ、ママ。チャイルドシートを使ってよ。

生まれたばかりの赤ちゃんが、
やがて笑うようになり、
よちよちと歩きだす。
子どもの成長を見守る保護者の、
大きな喜びでしょう。

しかし、そんな子どもたちの成長が
今、危険にさらされています。
JAFと警察庁の調査では、
半数以上の1～4歳児が、
チャイルドシートを
使っていません。
それは、子どもたちではなく、
保護者の責任です。

交通事故は予期せぬときに
起きるもの。
あなたに過失がなくても、
後ろや横からぶつけられる
かもしれません。

予期できない危険から、
子どもを守る唯一の装置が
チャイルドシートなのです。

乳児期 4～6

幼児期 7～9

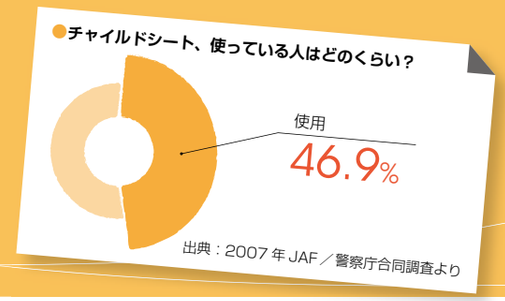
学童期 10～11

JAF

チャイルドシートを

# 使わない大人の言い訳って、正しいの？

道路交通法では、６歳未満の子どもはチャイルドシートの使用が義務づけられています。しかしJAFと警察庁の調査では、実際に使っている人は半分以下。その調査結果を詳しく見ると、どうやら乳児用シートを卒業したあたりから、年齢が大きくなるにつれて、使用率が低下するようです。これはどういうわけなのでしょうか。




## Q しっかり抱っこしていれば、大丈夫じゃないの？

チャイルドシートに乗せなくても、後部座席でしっかりと抱っこしていれば大丈夫、と考えるパパ・ママは少なくないようです。しかし万が一の交通事故のとき、抱っこでは、とても子どもを支えきれないことが、JAFの行った衝突テストで分かりました。
テストでは、後部座席でシートベルトをした実験用の女性ダミーのひざに、赤ちゃんダミーを乗せて時速５０㎞で壁に衝突。すると赤ちゃんダミーは、前席の背もたれに、座った格好のまま突っ込んでしまいました。

衝突した瞬間。車内ではエアバッグが開き、抱っこされていた赤ちゃんダミーが前方に突っ込んだ。

車内のカメラからは、後部座席の赤ちゃんダミーが、座った姿勢のまま前席の背もたれに突っ込んだのが分かる。

## A 衝突時、抱っこでは支えきれないほどの力が働きますよ。

### 乳児用シート卒業。使わなくても大丈夫？

チャイルドシートの使用率が激減する１～４歳児。乳児に比べて身体のつくりもしっかりしてきて、パパ・ママも安心してしまうのかもしれません。
しかし、急ブレーキのときでさえ、子どもは座席に座り続けられません。時速40㎞で急ブレーキをかけると、子どもダミーは前席背もたれに頭部をぶつけ、座席の下に転げ落ちてしまいました。

## Q すぐそこまでだし、ゼッタイ事故は起こさないから、いいでしょ？

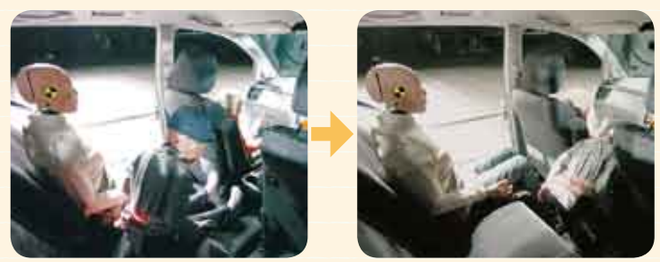
「私は安全運転してるから、交通事故は起こさない」という人がいるかもしれません。でも、危険を回避するために、やむを得ず急ブレーキを踏んだ経験はあるでしょう。そんな急ブレーキでさえ、チャイルドシートをしていない子どもにとっては、危険が伴うことがあります。
JAFの行ったテストでは、実際に女性モデルが赤ちゃんダミーを抱っこして急ブレーキをかけました。すると、急ブレーキの勢いで支えきれず、赤ちゃんダミーはダッシュボードに叩きつけられてしまいました。

上／急ブレーキを踏むと、前方に行こうとする力が働いて、車両が前に傾いた。下／女性モデルはシートベルトをしていたので座席にとどまったが、赤ちゃんダミーはダッシュボードに叩きつけられた。

## A それでも、急ブレーキは踏みますよね。

### 座っている場所によっては

後部座席中央で、チャイルドシートを使わずにそのまま座って急ブレーキ。子どもダミーは、運転席と助手席の間に転げ落ちました。「急ブレーキ時に後部座席中央にいた子どもがシフトレバーまで飛んできて右目を強打。ものすごくはれ、失明するところだった」という体験も報告されています。



写真はいずれも、JAFユーザーテストの結果です。この内容は、JAF Mate08年５月号ならびにオートルート08年春号に掲載されています。

赤ちゃんの体重 10kgくらいまで

# 後ろ向き「乳児用シート」

乳児期

## 1 赤ちゃんを 乗せる

まずは、赤ちゃんを正しく乳児用シートに乗せるところから。安全性と快適性が高く、軽くて扱いやすいうえ、赤ちゃんを乗せたまま車に乗せ降ろしできるのが、このシートの特徴です。

**☑チェックポイント**
- □ハーネスはぴったりフィットしていますか？
- □肩ハーネスの高さを合わせましたか？

### ❶ハーネス密着
バックルをセットしたら、調節用ベルトを引っ張って、子ども用ベルトのハーネスの長さを調節し、赤ちゃんの身体にぴったりとフィットさせてあげましょう。

### ❷肩の高さ
赤ちゃんの肩とハーネスに隙間ができないように。乳児用シートでは、赤ちゃんが上方向に動かないよう、肩をぐるりと回り込むようにハーネスの高さを調節します。

### 「乳児・幼児兼用タイプ」の基本は、まず“しっかり取り付け”
乳児・幼児兼用タイプでは、赤ちゃんを乗せる前に、チャイルドシートを車の座席に固定します。取扱説明書を見ながらそれに従いましょう。正しく取り付けられたかどうかは、P7（しっかり取り付け）を見てください。

### ハーネスを使用しないと？
ハーネスを使用しないと、赤ちゃんが乳児用シートから放り出されることがあることがJAFの行った衝突テストで確かめられています。

この実験では、背もたれ角度が規定値の半分で、かつハーネスを使用しなかった。

JAFユーザーテストより

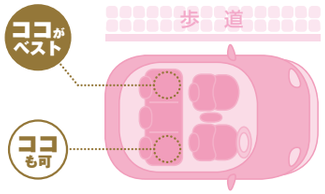
## 2 しっかり 取り付け

赤ちゃんを乳児用シートに乗せたら、車の座席にしっかり固定します。いつも赤ちゃんと一緒のママ・パパが、正しい取り付け方法をマスターしてくださいね。

### ❶45度
身体のつくりが未熟な赤ちゃんは、背中全体の広い「面」で衝撃を分散させる必要があります。起きすぎず、寝すぎず、安全性と快適性を両立させる45度を心がけましょう。

### ❷腰ベルト
車のシートベルトの、腰にかかる部分が「腰ベルト」。乳児用シートの取り付けでは、この腰ベルトの締め付けが大切なポイントです。緩み・たるみのないよう締め付けます。

### どこの座席に取り付ける？
赤ちゃんとママ、二人だけのお出かけだと、目の届く助手席に乳児用シートを取り付けたくなるもの。でも、万一の事故の際にエアバッグが開くと、助手席の赤ちゃんは弾き飛ばされる危険性も。乳児用シートは後部座席に取り付けましょう。赤ちゃんを乗せ降ろしするママの安全を考えると、歩道側の後部左席が理想です。



**☑チェックポイント**
- □背もたれ角度は、45度ですか？
- □腰ベルトは、ぴんと張っていますか？

### こんな車には取り付けられません
乳児専用シートは、車のシートベルトの長さが240cm以上ないと取り付けられません。購入前に、座席のシートベルト全長を確認しておきましょう。写真のように、シートベルトを全て引き出して計ります。

乳児期

## 3 もうすぐ赤ちゃん卒業の 次はコレ

赤ちゃんの体重が10kg以上になるころ、赤ちゃんが乳児用シートより大きくなって、足で車の背もたれを“蹴り蹴り”したり。そうなってきたら、次の幼児用シートを準備しましょう。

### 「幼児（専用）シート」

子どもの安全性と快適性を考えると、幼児専用シートがお勧め。専用シートなら、軽くてシンプルなものが多く、ママひとりでも扱いやすいでしょう。ただし、子どもが大きくなったら、学童用シートに替えなければなりません。

### 「幼児・学童兼用タイプ」

子ども用ベルトのハーネスの代わりに、インパクトシールドと呼ばれる胸当てで子どもを拘束します。子どもが成長したら、インパクトシールドを使わずに学童用シートとして使うことができます。

### 幼児用シートを選ぶポイント

□ **本体だけを手にとって、取り付けが簡単そうなものを。**
すべての製品には、本体に取り付け方法などが表示されています。それを見て、簡単に取り付けられそうなものを選びます。

□ **本体が軽いもの**
本体が重すぎると、取り付けや取り外しなどの扱いが大変です。比較的軽いものがベターです。

□ **「ECE規則」などに適合しているもの**
販売店に並んでいるものには、古い基準の適合品も含まれています。より安全性の高い新しい基準「ECE規則（ECE R44／04）」に適合した製品を選びましょう。

□ **自分の車に適合しているもの**
チャイルドシートメーカーでは、車種ごとに取り付け可否を示す「適合表」をインターネットなどで公表しています。購入前に、お店で自分の車に試着して確かめてみましょう。

### 「乳児・幼児兼用タイプ」を使っている人は……

乳児・幼児兼用タイプでは、後ろ向きから前向きの「幼児用モード」に切り替えることで引き続き使えます。この幼児用モードにするときにも、肩ハーネスの高さが適切か、見てあげましょう（P８参照）。一度シートカバーも洗濯してあげるといいですね。

子どもの体重　10kg〜18kgくらいまで

# 前向き「幼児用シート」

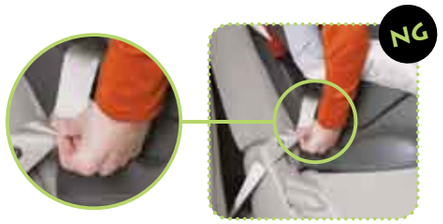
## 1 しっかり 取り付け

一度取り付けたら、取り外すことの少ないシートですが、それでも、ハーネスの高さ調節やカバーの洗濯のときには外すもの。定期的に取り付け具合も確認したいですね。

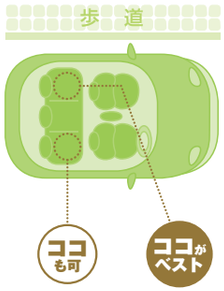
**チェックポイント**
□腰ベルトは緩んでいませんか？

### ❶腰ベルト

幼児用シートをしっかり固定するのは、シートベルトの腰ベルト部分。ここが緩いと、本体と一緒に子どもの身体が揺れて、とても危険。車酔いの原因にもなります。「OK」の写真のように、ベルトが指に食い込むくらいに、ぴんと張るように締め付けます。



### どの座席に取り付ける？




衝突時に開くエアバッグの威力はとても強力で、子どもには耐えられません。幼児用シートも、後部座席に取り付けましょう。ママが子どもを乗せ降ろしするときや、子どもが一人で乗り降りするときに安全な、歩道側の後部座席が理想です。

### インパクトシールドタイプなら？

子どもをチャイルドシートに座らせてから、胸当てを装着し、車のシートベルトで装置と子どもの身体を一体化して拘束します。

幼児期

## 2 子どもを 座らせる

しっかり取り付けられた幼児用シートでも、正しく座っていなければ効果はありません。
子どもがグズっても、心を鬼にして幼児用シートに座らせましょう。

**チェックポイント**
- □子どもが窮屈そうにしていませんか？
- □ハーネスは緩んでいませんか？

### ❶ハーネスの締め付け具合

子どもの身体を支えているのは、子ども用ベルトのハーネスだけ。調節用ベルトを引っ張って、子どもの身体とハーネスの間に、大人の指が滑り込む程度に、しっかりと締め付けて。

### ❷肩ハーネスの高さ

肩ハーネスの通し穴が、肩の高さより低くなっていると、子どもは圧迫感を感じます。肩と同じか、それより少し高めに調節しましょう。

### 厚着の場合

子どもが厚着をしたままだと、ハーネスがずり落ちることも。子どもが暴れて抜け出してしまうこともあります。可能なら、上着は脱がせてから座らせて。

### ハーネスを正しく使用しないと……

ハーネスを正しく使用しないと、万一の事故の際にとても危険。子どもの身体がチャイルドシートからこんなに離れてしまうことも。

JAFユーザーテストより

幼児期

## 3 もうすぐ年長さんの 次はコレ

子どもの体重が15kg以上になるころ、幼児用シートではちょっと窮屈そうに。
いよいよ学童用シートに切り替えです。

### 背もたれ付き「学童用シート」

背もたれ付きなら、肩ベルトの高さ調節ができるので、子どもの首に肩ベルトがかかってしまう危険性も防止できます。また、身体を包み込むような背もたれやサイドサポートのおかげで、横からの衝突の衝撃からも子どもを守ることができます。

### ブースター型「学童用シート」

この座面だけのタイプのものも学童用シートです。子どもをこの上に座らせることで座高が上がり、車のシートベルトの腰ベルトや肩ベルトが、身長の小さな子どもにも正しく着用できるようになります。

### 選ぶポイント

- □ **サイドサポートがしっかりしているもの**
  横からの衝突の衝撃にも耐えられるように、サイドサポートが大きいものがお勧め。
- □ **肩ベルトの高さ調節ができるもの**
  子どもの成長に合わせて、頭の部分を上下でき、肩ベルトの高さ調節のできるものを。
- □ **背もたれが取り外せるタイプのもの**
  背もたれが取り外せると、子どもがさらに大きくなっても使用することができます。

### 「幼児・学童兼用タイプ」を使っている人は……

インパクトシールドを取り外して、車のシートベルトで直接、子どもの身体を拘束します。この場合シートベルトの通し位置が変わる場合があるので、もう一度、取扱説明書で確認しましょう。

子どもの体重　15kg～36kg

# お兄ちゃん、お姉ちゃんの「学童用シート」

特別編　学童期

## 1 乗せて、締める

この体格になると、車のシートベルトを使って子どもを拘束します。学童用シートは、シートベルトを補助するための装置です。

### ❶肩ベルトガイド

背もたれ付きの学童用シートなら、肩ベルトの高さを調節できるベルトガイドがあります。このガイドで子どもの成長に合わせて、肩ベルトの高さ調節をすることができます。肩ベルトは、子どもの鎖骨の中央付近を通るようにしてあげましょう。

### ❷腰ベルトガイド

シートベルトが子どもの柔らかい腹部にかかると、子どもが嫌がるばかりでなく、万一の事故の際に強い衝撃がかかってとても危険です。シートベルトをベルトガイドに正しく通していれば、乗車姿勢が崩れにくく、疲れも少なくなります。

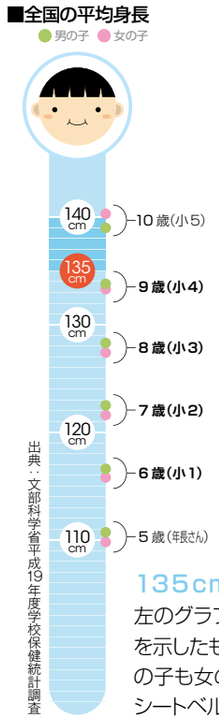
### 正しく使わないと……

肩ベルトから腕を抜いてしまうと、上半身が支えられません。衝突時、自分のひざ頭に顔や頭部を打ち付けてしまいました。

JAFユーザーテストより

## 特別編 6歳過ぎてもチャイルドシートは必要です

6歳になったらチャイルドシートはもう卒業？
確かに法律ではそうですが、車のシートベルトを使っていいのでしょうか？




### この状態で、車に乗せますか？

シートベルトは大人の体格に合わせて作られています。写真の女の子は身長が116㎝。肩ベルトは首にかかっていて、急ブレーキなどで身体が前傾したときには、首にケガをしてしまいそうに見えます。また、腰ベルトは本来、腰骨にかけるものですが、柔らかい腹部にかかっており、衝突時に内臓を損傷する危険性もあります。身長が135～140㎝になるまでは、学童用シートを使いましょう。

### 135cmを超えるのはいつ？

左のグラフは、全国の小学生の平均身長を示したものです。この統計によると、男の子も女の子も、小学校5年生で、車のシートベルトが着用できるようになります。

### やっぱり大人も、シートベルトを

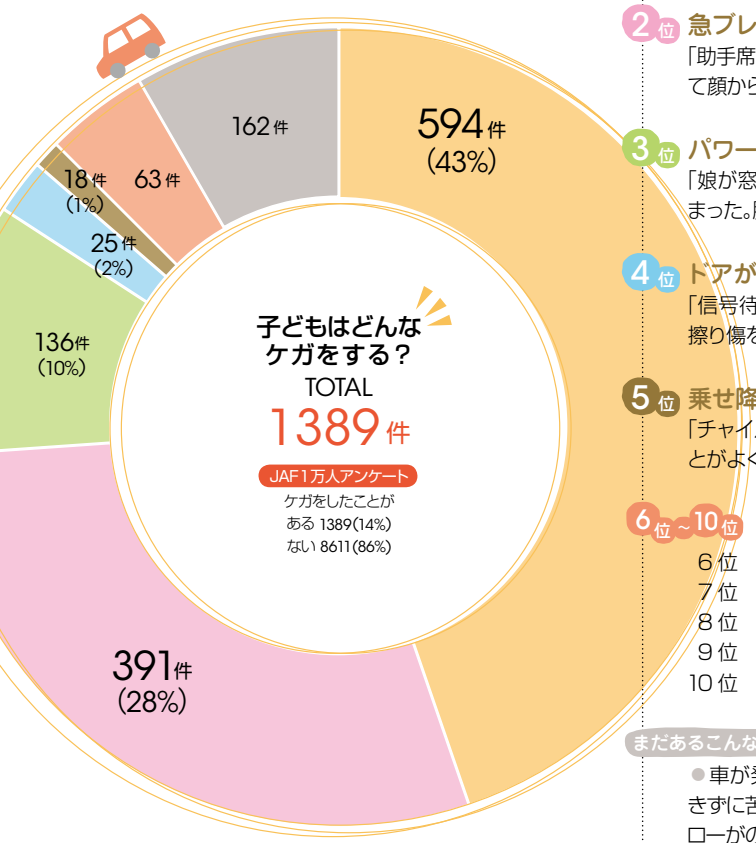
写真は、JAFで実施した衝突テストの映像です。
後席シートベルトを着用していない大人のダミーは、運転席の背もたれに身体ごと突っ込み、背もたれ越しにドライバーを押しつぶしてしまいました。
また、後席で、チャイルドシートに座っている子どもがハーネスをしていないと、フロントガラスにまで飛ばされてしまいました。
このように、車内では、だれか一人でもシートベルトやチャイルドシートを正しくしていないと、乗っているすべての人が危険にさらされるのです。

JAFユーザーテストより

チャイルドシートだけではありません

# よくある子どもの危険10

子どもにとって、車は格好のおもちゃ。だから、そばにいる大人が気をつけてあげなければならないポイントもたくさん。JAF Mate 誌のアンケートでよくある事例を聞いてみました。




## 1位 ドアに手や足を挟んだ

「子どもが乗ったと思い込み、ドアを閉めたら子どもの足を挟んでしまった」、「ドアが風で閉まって指を挟んだ」など。

## 2位 急ブレーキで頭や身体を強打した

「助手席で妻のひざの上にいた３歳の子どもが、手から離れて顔からダッシュボードへ突っ込み、鼻血が出た」など。

## 3位 パワーウィンドウに挟んだ

「娘が窓ガラスに寄りかかっていたら、スイッチを押してしまった。腕がガラスとともに引き込まれてアザができた」など。

## 4位 ドアが開いて車外に転落した

「信号待ちのとき、子どもがドアを開けて、道路に落ちて擦り傷を作った」など。

## 5位 乗せ降ろしのときに頭をぶつけた

「チャイルドシートの乗せ降ろしのときに、頭をぶつけることがよくある」など。

## 6位～10位

6位　チャイルドシートごと外れて転落した　17件
7位　シートベルトの金具でやけどした　16件
8位　シガーライターをいたずらしてやけどした　11件
9位　車内で熱中症、脱水症状になった　10件
10位　食べ物をのどに詰まらせた　9件

### まだあるこんな危険

●車が発進した拍子にキャンディがのどに詰まり、息ができずに苦しがった●ブレーキ時、飲んでいたジュースのストローがのどに刺さって血が出た●シートを後ろに倒したときに、勢いよく倒れすぎて後ろの息子の顔に当たり、鼻血が出た●車内でジャンプ傘が開いて子どもの顔に刺さった●子どもが喜ぶので窓を全開にしてドライブしたら、のどがカラカラになり、声がおかしくなった


発行：社団法人 日本自動車連盟
http://www.jaf.or.jp/
編集・著作：株式会社JAF MATE社
2008年3月 初版発行


■JAFロードサービス救援コール
0570-00-8139
●通話料は有料(固定電話は1分/10円、携帯電話は20秒/10円)。ただし、PHSおよび一部のIP電話等からはご利用になれません。
または、短縮ダイヤル #8139
●通話料は有料。ただし、固定電話(ダイヤル回線)および一部のIP電話等からはご利用になれません。

■その他のお問い合わせは
総合案内サービスセンター
0570-00-2811
●受付時間：午前9時～午後8時(年中無休)。
●通話料は有料です。
●ナビダイヤルがご利用になれない場合は
048-840-0036